

1 学習指導案の3つの役割

学習指導・授業の設計図

学習指導案を作成することは、育成を目指す資質・能力を明確にし、児童生徒が、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」という授業の内容や手順を具体的に考えていくことにほかなりません。

指導者は、年間指導計画に基づいた系統性や単元（題材）の目標、対象となる児童生徒の実態や課題を踏まえて、どのような内容をどのような学習活動を通して指導していくのかを大まかに構想した上で、毎時間の流れと内容を考え、必要な準備をしていきます。指導者は、学習指導案を作成することを通して、その内容や指導方法を事前に考えたり工夫したりしながら練り上げていくことができます。つまり、学習指導案は、その時間のねらい（育成を目指す資質・能力）を達成するための設計図と言えます。

こうして作成された学習指導案は、実際の学習指導・授業を進めていく際の進行表として働きます。指導者は、学習指導案を基に授業を行うことで、ねらいに即した学習指導を、計画的、効果的に進めていくことができます。

このような機能を担った学習指導案には、まず、よく練られた内容にすることが求められます。さらに、実際の学習指導の進行表となるためには、抽象的な理念を語ったものではなく、児童生徒の学習する姿がありありと思いつけるような具体性が求められます。

児童生徒に求められる資質・能力を育成する学習指導を実現するためには、具体的なプランが示されている学習指導案を作成することが重要なことと言えます。

授業研究の資料

公開授業では、授業のねらいや工夫点等、授業参観の観点を明確にしておくことが重要です。また、児童生徒の実態や、自校の研究主題等、あらかじめ周知したいこともあります。このようなとき、学習指導案は共通理解を図るための資料としての重要な役割を果たします。

授業研究の資料として、指導者は何を伝えたいのか、どのようなことを一緒に考えたいのか、自分の考えや思いを明確に打ち出すことが重要です。ただし、共通理解のための資料でもあることから、授業研究に参加する人の実践経験や立場等を考慮して、相手の立場に立った言葉遣いや表現に努めることが大切です。実りの多い授業研究とするためには、ポイントを絞った内容を分かりやすい言葉で簡潔に表現し、専門用語や自校独自の言葉を使う場合は、その語の意味を解説したり、定義付けたりする等、正確に理解できる配慮が必要です。

授業実践・研究の記録

授業を終えた後には、児童生徒の様子や自分自身の指示や発問等の指導を振り返って成果や課題を明らかにすることが必要です。その際、児童生徒の反応や計画の変更点、反省点等様々な書き込みがされた学習指導案は、授業記録としての役割を果たします。

事後研究会では、この記録を基に授業を振り返って、成果や課題、改善点等を出し合い、協議を深めていきます。また、児童生徒の発言記録やノートのコピー、写真や動画等の資料を加え、研究協議での意見や自分自身の考察等を付け加えることで、充実した研究資料となります。自らの授業力を高める上で、授業を終えた後の学習指導案を活用することは、有効な手立てであり、次への構想の準備にもなります。

